

四国経済の現状について (全国財務局長会議資料)



I. 管内の経済構造

II. 管内の経済情勢

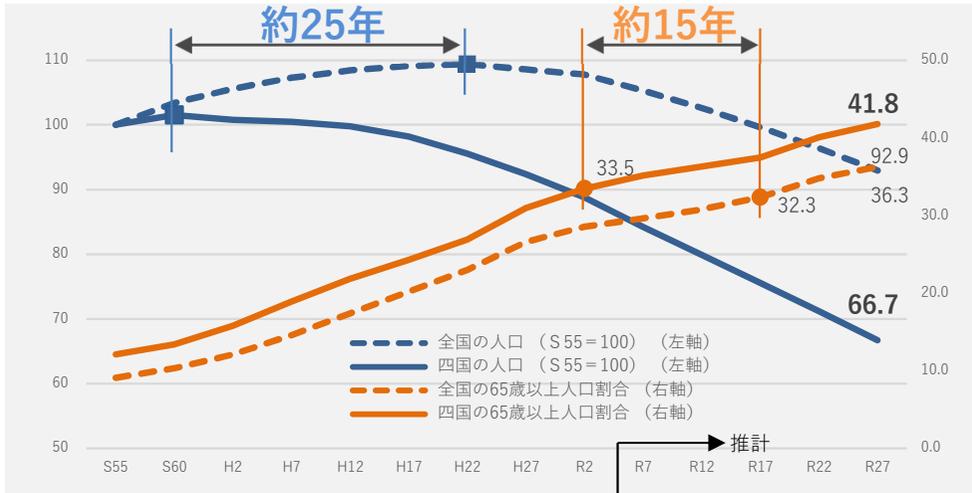
令和7年7月29日

四国財務局

I. 四国財務局管内の経済構造 -人口減少先進地域、3%経済-

全国に比べ約25年早く人口減少に転じ、約15年早く高齢化が進展

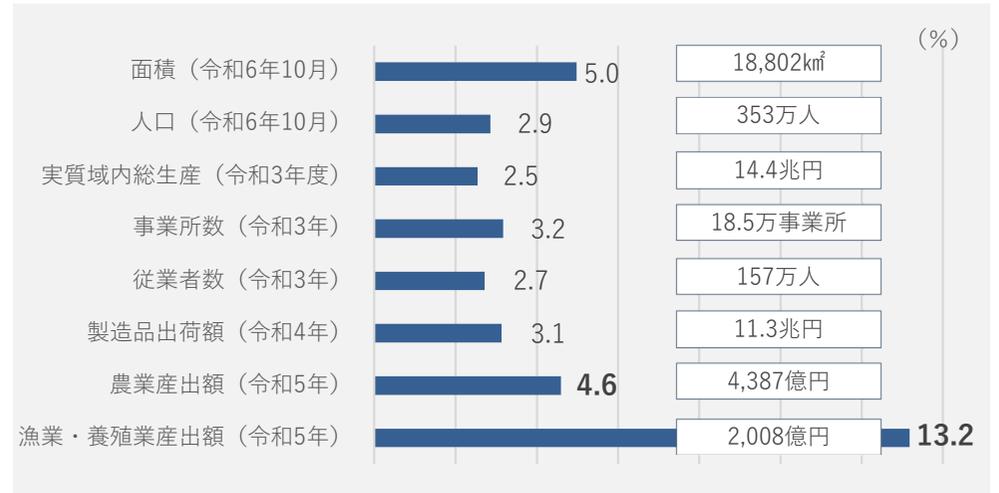
人口動態



【出所】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（令和5（2023）年推計）

域内総生産などが全国シェア3%、農業・漁業のシェアは高い

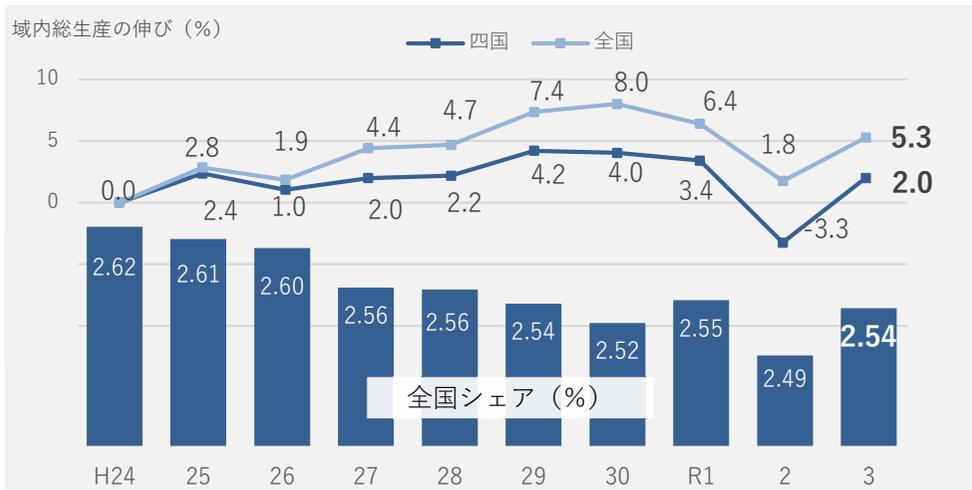
経済規模（全国シェア）



【出所】国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「人口推計」、内閣府「県民経済計算」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」「経済構造実態調査」、農林水産省「農業産出額及び生産農業所得」「漁業産出額」

域内総生産の伸び率は全国を下回り、シェアも徐々に低下

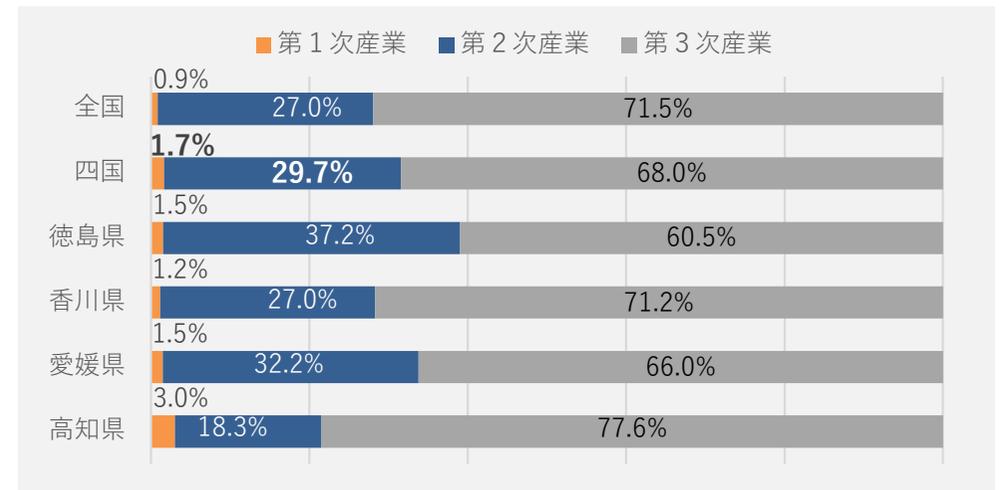
域内総生産（実質）



【出所】内閣府「県民経済計算」 ※全国は、県内総生産（実質、平成27暦年連鎖価格）の全県計

第一次（農林水産）・第二次産業（製造業）のシェアが高い

域内総生産産業別構成比（名目・令和3年度）

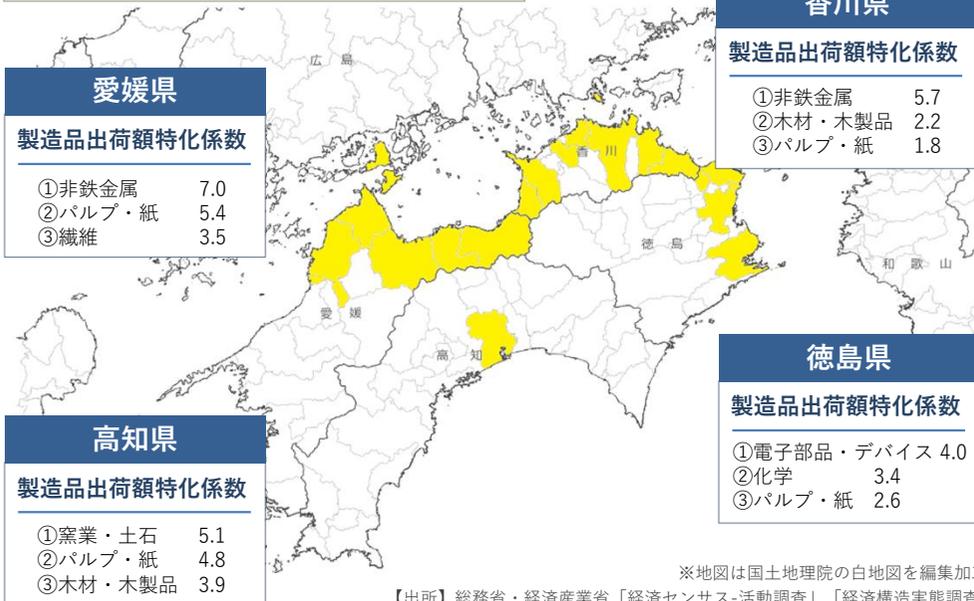


【出所】内閣府「県民経済計算」 ※構成比は帰属利子等調整前の総生産を100として算出

I. 四国財務局管内の経済構造 — 製造品出荷額等 —

製造品出荷額が多い地域は瀬戸内海沿岸に集積

製造品出荷額1,000億円超の市町（黄色）



※地図は国土地理院の白地図を編集加工

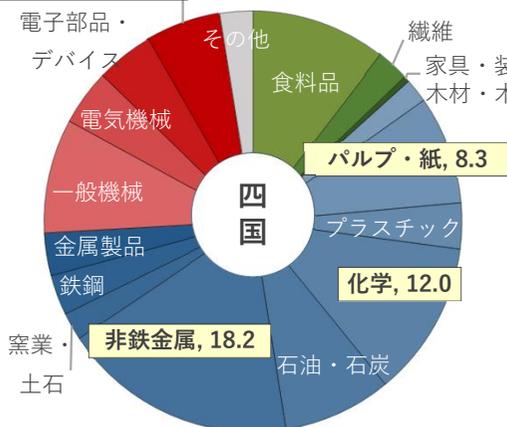
【出所】総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」「経済構造実態調査」

非鉄金属やパルプ・紙のシェアが高く、輸送用機械のシェアが低い

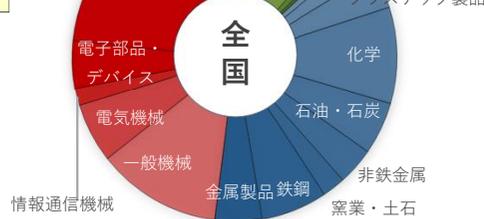
製造品出荷額業種別構成比（%）

■ 基礎素材型 ■ 加工組立型 ■ 生活関連型

輸送用機械器具, 5.9



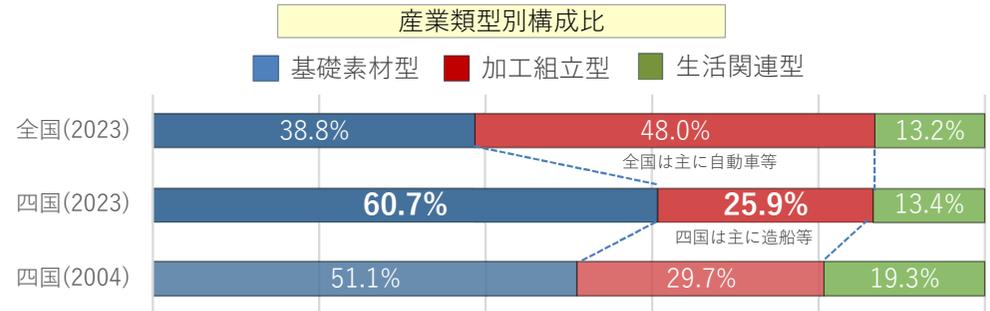
輸送用機械器具, 19.5



【出所】総務省・経済産業省「経済構造実態調査」

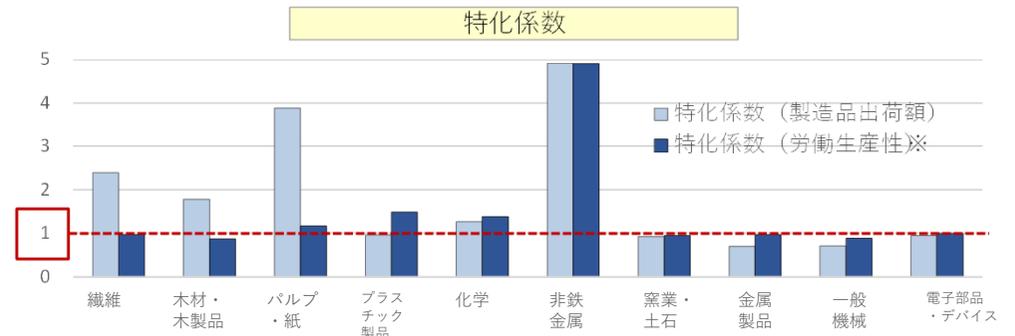
全国に比べて基礎素材型のシェアが高く、加工組立型が低い

【出所】総務省・経済産業省「経済構造実態調査」「工業統計」 ※基礎素材型、加工組立型、生活関連型以外の「その他」を除く



労働生産性特化係数は、一部の業種を除き全国よりも低位

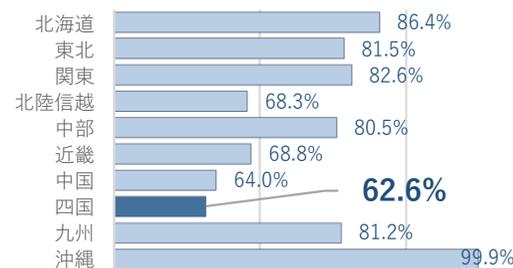
【出所】総務省・経済産業省「経済構造実態調査」 ※労働生産性 = 付加価値額/従業者数 特化係数 = 労働生産性(地域) / 労働生産性(全国)



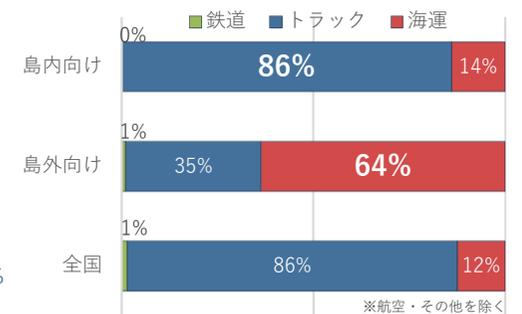
全国に比べて地域外向けが多く、輸送モードは海運が中心

【出所】国土交通省「物流センサス」

地域内流動（3日間調査：重量ベース）

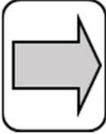


主な輸送モード（3日間調査：重量ベース）



※航空・その他を除く

Ⅱ. 管内の経済情勢

	令和7年4月判断	令和7年7月判断	総括判断の要点	4月判断との比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	<p>個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっていることから、全体としては緩やかに持ち直している。</p> <p>生産活動は、化学が緩やかに持ち直しつつあるものの、非鉄金属、金属製品が弱含んでいることから、全体としては一進一退の状況にある。</p> <p>雇用情勢は、緩やかに持ち直している。</p>	 (3期連続据え置き)

〔先行き〕

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

項目	令和7年4月判断	令和7年7月判断	4月判断との比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
公共事業	前年度を上回っている	前年度を上回っている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	7年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	6年度は増益見込み	7年度は減益見込み	

※ 7年7月判断は、前回7年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

個人消費

個人消費

緩やかに持ち直している

(3期連続据え置き)

- スーパーは、衣料品等に弱さがみられるものの、米や総菜等の飲食品が順調であることから、全体としては堅調となっている。
- コンビニエンスストアは、米飯類や飲料等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。

〔主なヒアリング結果〕

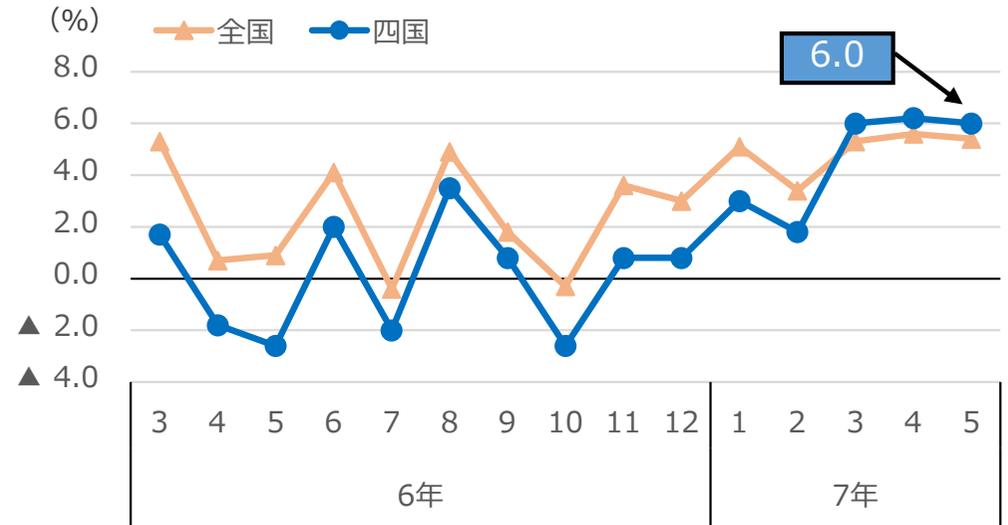
「スーパー」

- 4月は前年よりも気温が低かったため、春服の動きが悪かった。足下では気温が上昇し、夏物衣料が動き始めているが、例年と比べると動き出しは遅い。
- 単価上昇に加え、備蓄米販売により、米の売上高が大きく伸びている。
- 外食の割高感や、食用油・光熱費などの内食コスト上昇から、総菜は引き続き好調。

「コンビニエンスストア」

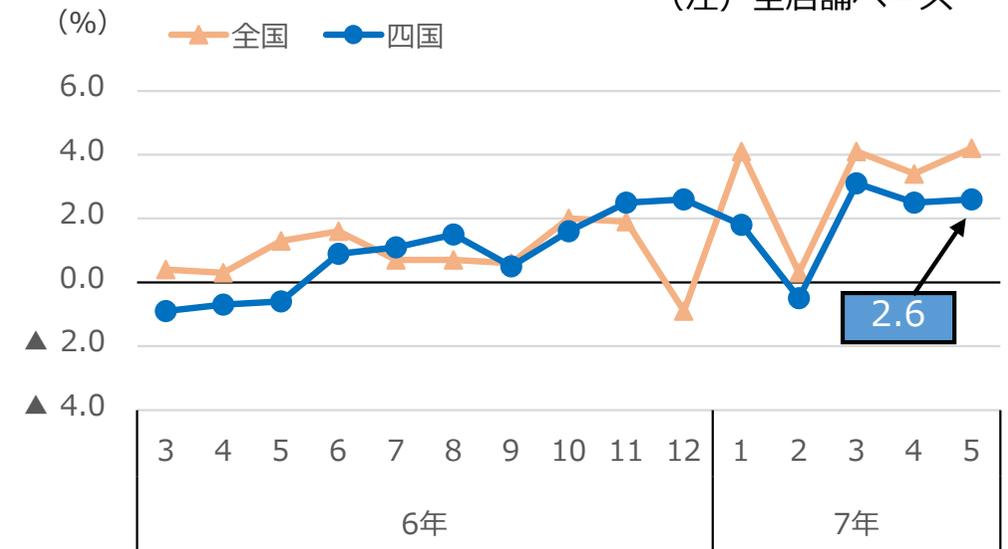
- 品揃え強化や販売促進の効果などから、おにぎりやパン類の売行きがよい。
- 買上点数は前年割れとなっているものの、物価高による客単価の上昇が全体の売上高を押し上げている。

〔スーパー販売額（前年同月比）〕 (注) 全店舗ベース



〔コンビニエンスストア販売額（前年同月比）〕

(注) 全店舗ベース



【出所】経済産業省、四国経済産業局

個人消費

- ドラッグストアは、医薬品や食料品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。
- 家電大型専門店は、エアコン等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。
- ホームセンターは、季節商品に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。

〔主なヒアリング結果〕

«ドラッグストア»

- 寒暖差が大きかったため、風邪薬等の医薬品や、ハンドクリーム等の保湿商品の売行きがよかった。
- 米価格高騰のため、レトルトご飯や米の代替品としてシリアル、パン、麺類の売行きがよい。

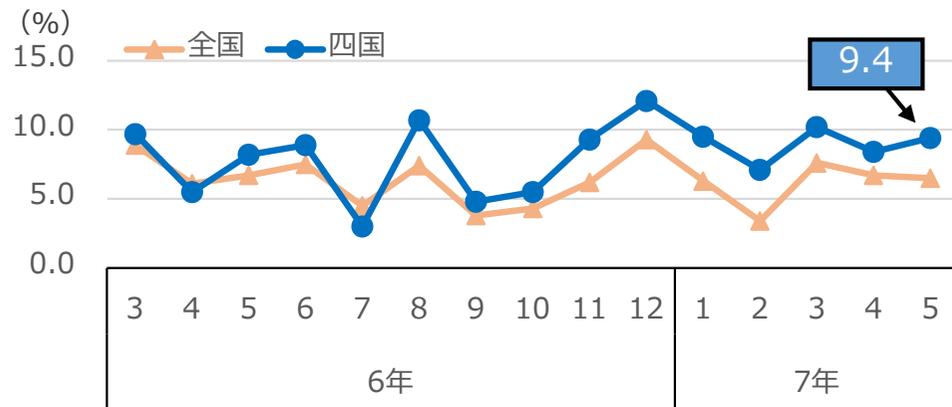
«家電大型専門店»

- エアコンは好調を維持。気温上昇に伴い、足下では平日でも買いに来られる方が増えている。
- 備蓄米報道により精米機の売行きがよい。

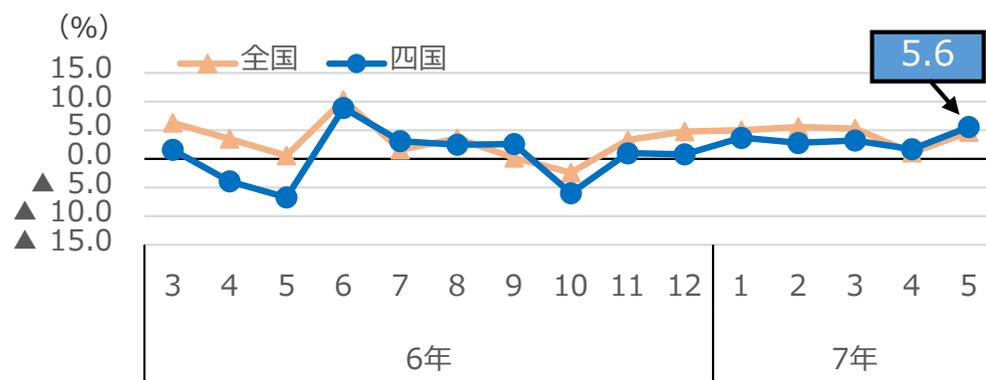
«ホームセンター»

- 職場における熱中症対策の義務化により、エアコンや扇風機の需要が伸びた。

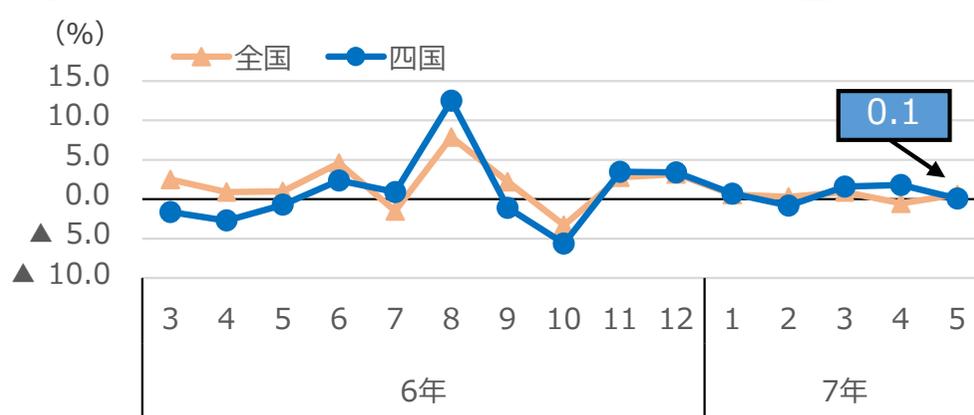
〔ドラッグストア販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



〔家電大型専門店販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



〔ホームセンター販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



【出所】経済産業省、四国経済産業局

個人消費

- 百貨店は、衣料品や身の回り品等の動きが弱いことから、全体としては弱含んでいる。
- 乗用車の新車登録・届出台数は、普通車は前年を下回るものの、小型車及び軽乗用車は前年を上回っていることから、全体としては前年を上回っている。
- 観光は、外国人観光客の増加などにより、緩やかに回復している。
- 旅行は、国内旅行、海外旅行ともに、緩やかに持ち直しつつある。

〔主なヒアリング結果〕

「百貨店」

- 気温の影響などから、春夏物衣料の動き出しが悪い。
- 円高傾向によるインバウンド需要減少に伴い、高級ブランド製品が不調。

「乗用車」

- 新保安基準への対応遅れによる生産停止が解消され、販売台数は引き続き回復傾向。
- 軽乗用車について、新型車の売行きがよく、受注が伸びている。

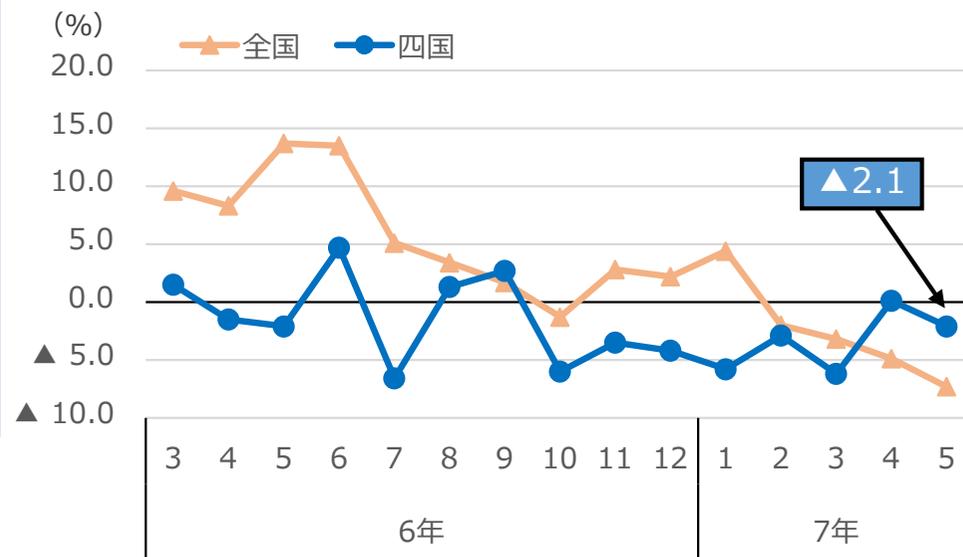
「観光」

- 円安や国際線の充実によるインバウンドの好調と、瀬戸内国際芸術祭の開催を背景に、入込客数は前年比プラスとなっている。

「旅行」

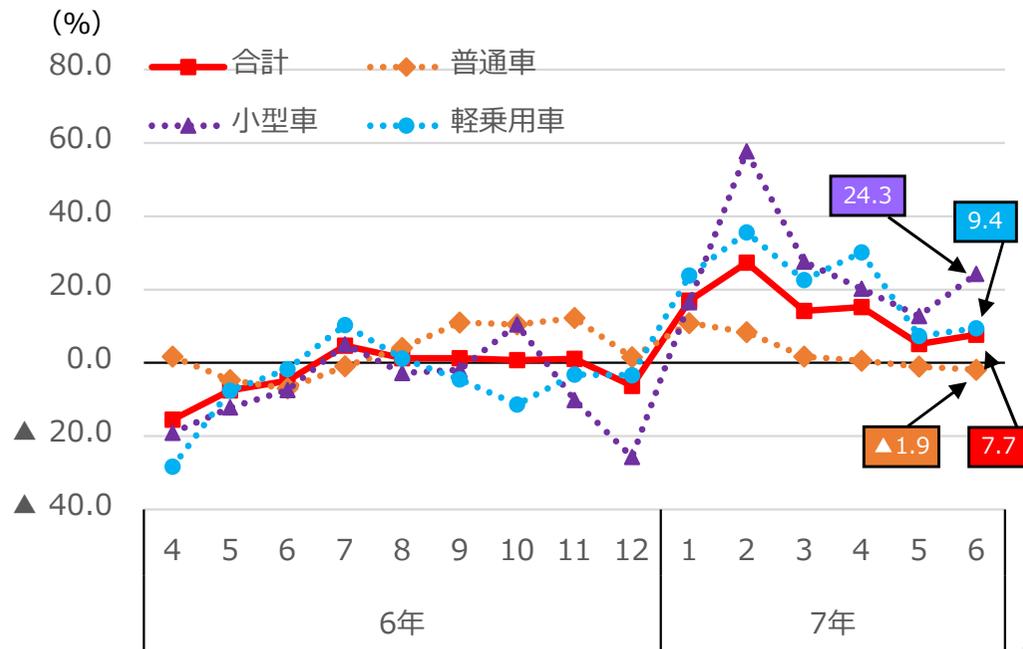
- 国内旅行について、テーマパークや万博関連の商品が人気を集めている。

〔百貨店販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



【出所】経済産業省、四国経済産業局

〔四国の乗用車新車登録・届出台数（前年同月比）〕



【出所】（一社）日本自動車販売協会連合会、（一社）全国軽自動車協会連合会のデータから算出

生産活動

生産活動

一進一退の状況にある

(8期連続据え置き)

- 化学は、医薬品に動きがみられることから、緩やかに持ち直しつつある。
- 食料品は、堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直している。
- 金属製品は、受注に弱さがみられ、弱含んでいる。
- 非鉄金属は、原材料不足などから、弱含んでいる。

〔主なヒアリング結果〕

《化学》

○医薬品は、海外需要の高まりなどから生産量が増加。

《食料品》

○米価格高騰の影響もあり、食パン・総菜パンの需要が増加。

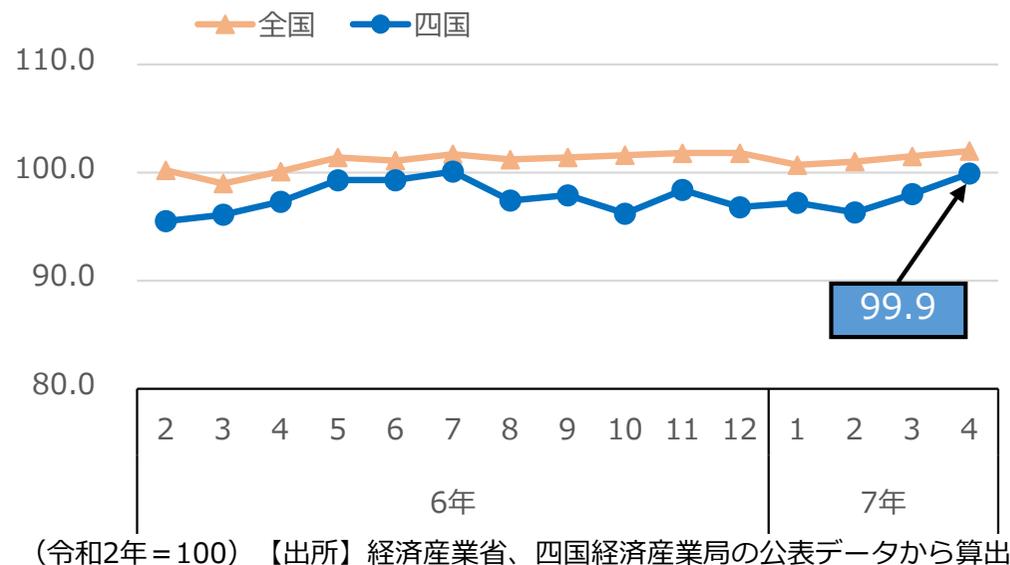
《金属製品》

○原材料価格が低下傾向にあることから、取引先が発注様子見の状態にあり受注が低調。

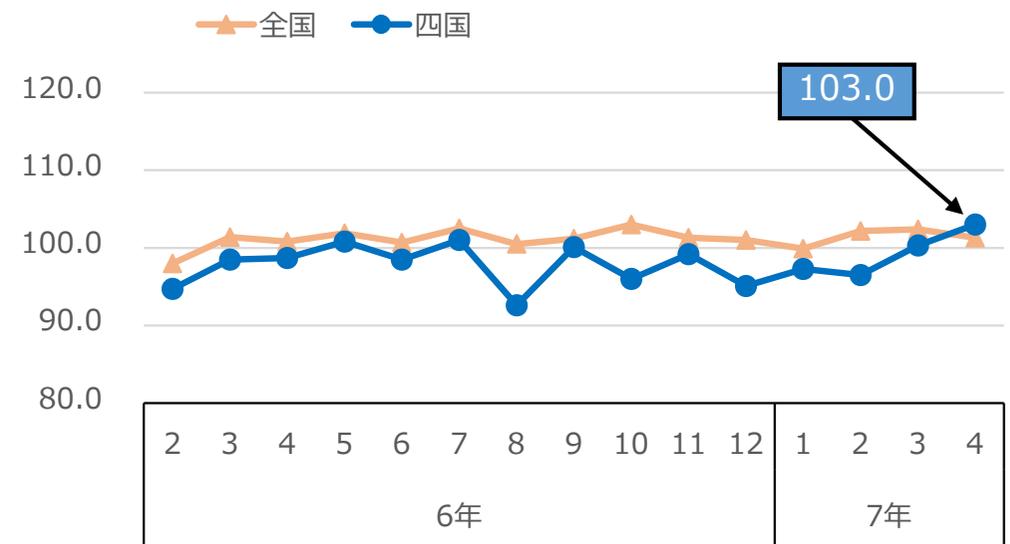
《非鉄金属》

○輸入原材料の不足などから、電気金の生産量が低下。

〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、3か月移動平均）〕



〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、単月）〕



雇用情勢

雇用情勢

緩やかに持ち直している

(11期連続据え置き)

- 有効求人倍率は横ばいとなっている。
- 新規求人数は前年を下回っている。
- 法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、6月末は全産業で30.2%ポイントと「不足気味」超となっている。

〔主なヒアリング結果〕

「公的機関」

- 求人提出時期のずれなどで求人数の減少がみられているが、退職者の発生や業務量の増加などにより人手不足の状況が続いている。
- 賃上げを行わないと人手が確保できないとの声や、既存従業員の待遇改善に力を入れているとの声が聞かれている。

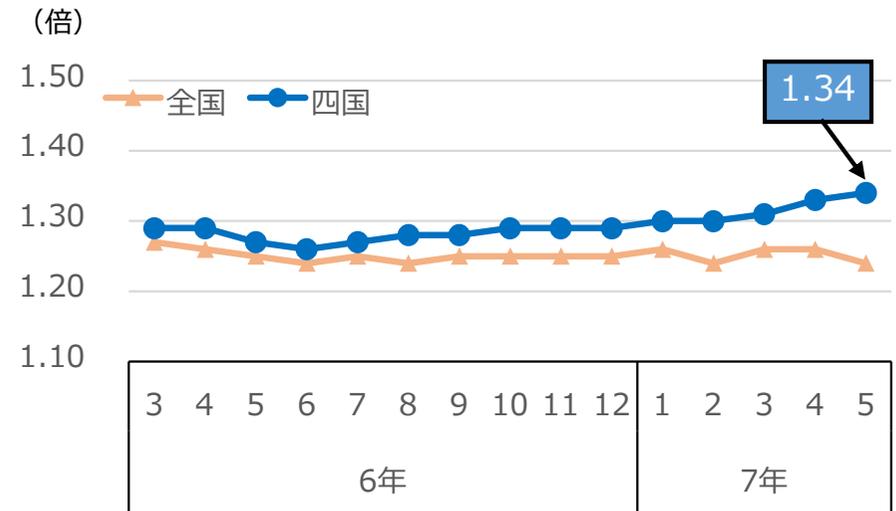
「金属」

- 工事現場に配置が必要な技術者が不足していることから、受注を制限せざるを得ない。

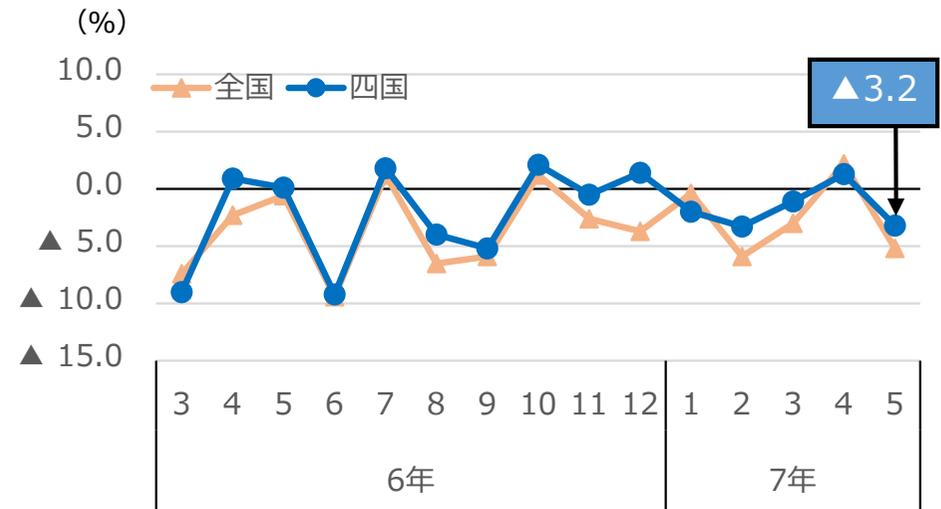
「生活関連サービス」

- バスの運転手不足により、バス会社から予め運行不可日の伝達があるため、その日を避けてツアーの日程を組む必要がある。

〔有効求人倍率（季節調整値）〕



〔新規求人数（原数値、前年同月比）〕



【出所】厚生労働省の公表データから算出

※計数は、季節調整替え、基準改定、速報の確報化、誤計数の判明等により、過去に遡って訂正される場合があるので、利用される場合は、各発表機関の直近の公表データをご確認ください。

■お問い合わせは

電話番号 087-811-7780

財務広報相談室（内線260）又は 経済調査課（内線250）へ

ホームページアドレス <https://lfb.mof.go.jp/shikoku/>